

全国映画館で
絶賛公開中！

くらしのうつりかわり展  とその時代 映画に見る昭和のくらしー



『母べえ』監督：山田洋次/主演：吉永小百合

©2007「母べえ」製作委員会

文化博物館だより 第206号

2008年2月28日

みなさん、こんにちは。文博では、ひきつづき、「くらし展」が開催中ですよ。

むかし遊びを楽しもう

平日は、小学校の子ども達の見学が続いています。体験学習室では、や火おこしを体験します。

男の子にはわりばし鉄砲やベーゴマが人気。お手玉をするのは女の子が多いようです。みんな展示室では一生懸命勉強していますが、ここでは楽しく遊びます。

火おこしは、まわすのにコツがいりますが、なかには最初からビュンビュン上手にまわせる子も。だからといってすぐに火を起こせるわけではありません。古代の人々は道具も自分たちで作るところから始めて、火をおこしていたのだからすごいですよね。



火おこし
上手ですね！

時間いっぱい遊んだら、ちゃんと片付けもして帰りましょうね。

戦時のくらし

戦争が激しくなり国の供出(きょうしゅつ)政策が実施されると、武器をつくるのに必要な金属製品や食料などを国に差し出すよう強制されました。映画『母(か)あべえ』にも、仙吉おじさんが金の指輪をしていると、「ぜいたくは敵だ」というスローガンが書かれた旗を持った婦人たちが供出するようつめよるシーンがあります。仙吉おじさんはそれを拒否しますが、婦人たちは「非国民」となじります。戦争に協力的でないと批判される時代だったんですね。

そんな時代背景のもとで、物資が不足し、当時の人たちは代用品を使うようになります。「くらし展」では代用品の貝を使ったしゃくし、陶製の羽釜などが展示されています。代用品のほかには、夜間にあかりがもれると敵の爆撃の目標となるとして、光が広がらないように工夫した電球、物資が足りないため横糸に和紙を使って織られた帯など、当時の道具から戦争の影響をうかがうことができます。



展示の様子

自由にものを言えない。物資が不足し生活が苦しい。男たちは戦争に行ってしまう。『母べえ』の時代は、生きていくだけで一生懸命な苦しい時代だったのです。

3月のイベント(展覧会関連、その他)

イベント名	日	時	定員・対象	申込など
ワークショップ 「映画作り体験教室」	1日(土)	午後1時～	各15名 (小学4年生以上)	電話受付中
	2日(日)			
あべさんの紙芝居 「黄金バット」	15日(土)	午前10時～	30人 (小学生以上)	2日午前9時～ 電話受付 参加費：300円
ワークショップ 「手作りおもちゃを作ろう」		午後2時～		
さおり織でコースター作り		午前10時～ 午後3時		
十二単・鎧・衣冠の着付け	8日(土)	午後2時～、午後2時40分	各時間 十二単1人、鎧か衣冠1人	1日午前9時～ 電話受付
	23日(日)			
	20日(木)	午前10時30分～、午前11時10分～		
布ぞうり作り	16日(日)	午前10時～ 午後3時	25名	1日午前10時～ 参加費：300円

すべてのイベントには観覧料が要ります

大人気、紙芝居

昔なつかしい自転車に乗せた紙芝居を演じる紙芝居アーティスト・阿部元則さんが16日(土)、文博ロビーに登場！紙芝居の下の引き出しには、色んなおもちゃも入っていますよ。

今回の演目は、「がいこつメガネ」「黄金バット」など。紙芝居の中から出されるクイズにはみんな元気よく手をあげます。正解すると、よく通る声で「せえかい～(正解)!!」と言って、阿部さんが紙コプターやコマをくれます。

子ども達のうしろで見守っていた大人も参加する場面があり、子どもだけでなく大人もひきつけられる魅力いっぱいの紙芝居でした。



紙芝居

阿部さんの紙芝居は、3月にも上記の日程で行なわれます。紙芝居でもらえるおもちゃ作りもありますので、ぜひご参加下さい。



小学生の頃(約20年前)、私もコマ回しや剣玉をして遊んでいました。ベーゴマも持っていましたが、一度だけしかまわせませんでした。ファミコンやゲームボーイが流行っていた頃でしたが、昔遊びもしていたように思います。今の子ども達はどうかでしょうか…。

(先日、館南側の白梅が開きました。)